

コリンエステラーゼ				362000	
				担当部署	
CHE				生化	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項			特記事項なし		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→			
	2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→生化学→			
	3	電子カルテ→指示①→検査→*3.緊急→			
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報			有機リン中毒の患者において、阻害を受けるため低活性となる。		
検査受付時間			緊急対応(24 時間)		
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項			特記事項なし		
検体採取の特別なタイミング			特記事項なし		
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件			室温		
検体受入不可基準			1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体		
保管検体の保存期間			冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)		
検査結果・報告					

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		当日中～翌日				
生物学的基準範囲		M240-486U/L F201-421U/L 日本臨床検査標準化協議会 共用基準範囲				
臨床判断値		設定なし				
基準値					単位	U/L
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
設定なし	設定なし	240	486	201	421	
パニック値		高値	設定なし			
		低値	設定なし			
生理的変動要因		特記事項なし				
臨床的意義		コリンと有機酸とのエステル結合を加水分解する酵素は有機酸に非特異的なコリンエステラーゼ(ChE)と酢酸基に特異的なアセチルコリンエステラーゼ(AChE)がある。 日常検査されるのは血清中 ChE でブチリルコリンエステラーゼとも呼ばれる。 ChE は主に肝実質細胞で産生され血清、すい臓、脂肪細胞中でも活性が認められる。しかし、ChE の生理的意義は十分に解明されておらず解毒に関係すると推察されている。 ChE 活性は肝機能障害、有機リン中毒、遺伝的欠損症、脂肪肝などの指標となる。 日本臨床第 7 版 397,2009				